



名瀬中学校（奄美市）

表現・思考力を養う

実践校4年目となり、引き続き記事を読んで表現力を養い、思考力を深めることを目標に据えた。全学年が国語の授業で活用するほか、土曜授業の朝の20分間に記事の感想をまとめ、生徒同士で読み合う「名中タイム」を続ける。

奄美の世界自然遺産登録の際は全国紙と地元紙の読み比べも行った。NIE担当の田平絹代教諭（50）は「書くことが習慣化され、意見や感想を積極的に発表する生徒が増えた」と手応えを語る。

この日は、2年生の国語の授業で人物の紹介記事を取り上げ、見出しのポイントや人物造形に必要な要素について学んだ。西形なぎさんは「記事が何を伝えたいかを考えるくせがつき、要点を把握できるようになった」。田平教諭は「ほかの教科でも新聞記事を効果的に取り上げ、深い学びにつなげていければ」と話した。（桐原史朗）

かごしま

NIE実践校



楠隼高校（肝付町）

多様な意見から学ぶ

生徒たちは休み時間にも新聞を広げることが多い

実践校3年目の全寮制男子校。全教室と寮の全フロアに南日本新聞と全国紙を配置する。休み時間や放課後に読み比べを習慣化した生徒も多い。地歴公民科の二宮勇貴教諭（34）を中心に、授業資料や試験問題にも積極的に新聞記事を活用する。

1年生全員が班活動で取り組むのは「まわし読み新聞」の作成。それぞれが記事を選び、意見や感想を書き添えてほかの生徒にも読んでもらい、意見交換する。松宮琉太さんは「多様な意見に触れ合うことで理解が深まった。全員が納得する答えを導き出す難しさも感じた」。村山智昭さんは「新聞社ごとの立場の違いも見えてきた。自分と異なる視点を知る大事さを学んだ」と語る。

二宮教諭は「生徒の間で時事問題を社会常識と捉え、知っておきたいという意識が高まった」と手応えを感じている。

（山野俊郎）